

大学生からのメッセージ

「温泉と銭湯の違いと勘違い」

琉球大学 国際地域創造学部 3年

三谷征輝

みなさんは「温泉」と「銭湯」の違いについて考えたことはあるだろうか。ただの水道水を用いている施設が「銭湯」で、天然温泉を用いている施設が「温泉」だと思っていないだろうか。しかし、これはよくある勘違いである。

「銭湯」というのは、公衆浴場法に基づいて「一般公衆浴場」に分類される、「地域住民の日常生活における保健衛生上必要な入浴施設」のことを指します。「銭湯（一般公衆浴場）」は戦後直後の1946年にハイパーインフレ対策として制定された物価統制令において入浴料金が統制されている。（銭湯の入浴料金は現在も統制されている唯一の物品）公衆浴場法には「一般公衆浴場」のほかに「その他の公衆浴場」がある。「その他の公衆浴場」は一般的にはスーパー銭湯やサウナ施設などがある。つまり「銭湯（一般公衆浴場）」と「非銭湯」の違いは施設の営業形態や法的分類による区別である。

一方で、「温泉」というのは、1948年に制定された温泉法により、地中から湧出する温水、鉱水、水蒸気、その他のガスのうち、源泉温度が25℃以上、または一定の「成分」を規定量以上含むものと定義される。これを一般的には「天然温泉」という。一方で、人工的に鉱石や薬剤などで温泉成分を添加して温泉を再現したものを一般的に「人工温泉」と言われるが、これは温泉法上「温泉」には定義されない。つまり、「温泉」と「非温泉」の違いは、施設の種類ではなく、お湯そのものの成分や由来による区別である。

では、なぜ「銭湯＝水道水」「温泉＝天然温泉」という勘違いが起こるのか、自分なりに考えてみた。

いままでの話から入浴施設は、四つに分類できる。まず「温泉」かつ「銭湯（一般公衆浴場）」の施設、次に「非温泉（水道水）」かつ「銭湯」、三つ目に「非温泉」かつ「非銭湯（その他の公衆浴場）」、そして「温泉」かつ「非銭湯」の四つに分類できる。一つ目に分類される施設は、天然温泉でありながら銭湯料金で利用できる施設であり、利用者にとってコストパフォーマンスの高い存在である。しかし、天然温泉を掘削・維持するためには費用や立地条件が必要となるため、その数は少ない。一方で、二つ目に分類される施設は、水道水や地下水を加熱した従来型の銭湯が中心であり、東京や大阪などの都市部を中心に多く存在している。また、三つ目に分類される非温泉のスーパー銭湯なども存在するが、近年では集客力向上のために天然温泉を導入する施設が増えている。そのため、四つ目に分類される「温泉」かつ「非銭湯」の施設、すなわち天然温泉を備えたスーパー銭湯や日帰り温泉施設の数が多くなっている。

本来、公衆浴場は「天然温泉か否か」と「銭湯施設（一般公衆浴場）か否か」という二つの異なる軸によって四つに分類できる。しかし、実際には、二つ目の分類（非温泉かつ銭湯）と四つ目の分類（温泉かつ非銭湯）に分類される施設数が多いため、「銭湯＝水道水を用いた施設」「温泉＝天然温泉を用いた施設」という単純化された認識が生じやすい。このように、本来は四つに分けられる二次元的である分類が、人々の認識の中で一次元的に理解され、二つに分けられることで、単純化された誤解が生じたと考えられる。

【サークル情報】

石川県立大学「能登学生応援隊」が奥能登地域の復旧、復興を応援

①白米千枚田地区への応援

当協会と学生サークル「石川県立大学能登学生応援隊」が一緒に、白米千枚田（石川県輪島市：世界農業遺産：棚田1,004枚）の田植えを2日間にわたり応援しました。

輪島市役所が募集した棚田オーナー170組が全国から集まりました。今回、田植えを行うのは、復旧した棚田480枚（昨年250枚）です。輪島市役所の依頼により、学生応援隊の学生は、棚田オーナーの誘導、交通整理など運営スタッフとして活動しました。

協会も作業予定日の学生応援隊の参加学生の確保、白米千枚田までの移動、輪島市役所との作業内容、日程の調整などを担いました。



＜土砂崩れが未だ復旧されていない白米千枚田＞



②能登町当目地区への応援

地域活性化団体のNPO法人当目（とうめ）（石川県能登町）から「大学生サークルと農村マッチング事業」※の依頼があり、学生サークル石川県立大学能登学生応援隊とNPO法人当目とのマッチングを行いました。

マッチングではNPO法人当目から大学生に対して、地域復興のために応援して欲しい活動内容（①当目千石棚田での農作業支援・スマート農業導入支援、②古民家・空き家のリフォーム支援、③生き物調査とその活用について思考、④各種団体との交流やイベント支援、⑤活動に関しての情報発信）が説明され、意見交換が行われました。今回のマッチングの結果、NPO法人当目が希望する活動に対して石川県立大学能登学生応援隊が応援することになりました。

※「大学生サークルと農村マッチング事業」とは、地域おこしのために大学生の応援が欲しい行政、地域おこし団体等と農業農村の応援を目的とした大学生サークルをマッチング。



＜マッチングの様子＞

【サークル情報】「農業農村を応援する大学生サークルネット」に新たに2つのサークルが参加し、**14大学15サークル**になりました。

①秋田県立大学Beginners

「学生の興味を形にすること」を目的としたサークル。「私たちの興味・楽しみ」×「みなさんからのニーズ」を軸に活動。ボランティア活動、地域活動、現場見学などを行う。具体的には、リンゴ農家の手伝い、地域の祭りの準備・参加、子供たちへのワークショップ企画、エネルギー施設見学など。



男鹿めぐみ農園摘果手伝い

②秋田県立大学起業サークル| LOBE AKITA

「起業に関わるような活動をする事」を目的としたサークル。主な活動として、

1)「ビジネスコンテスト」への参加

「日替わりのスナックと簡易宿泊施設を開業する」

プランの提案で最優秀賞グランプリを受賞。

2)商品の製造・販売

お土産用として秋田県のコメ粉を原材料にラムネ

「こめらむね」を製造・販売。※中里コメント「とってもおいしいです。」

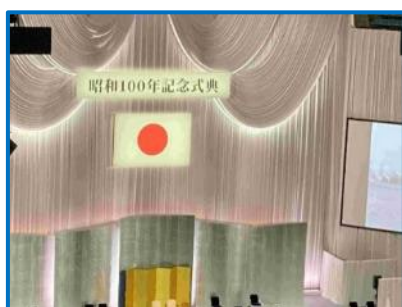


【トピック】「昭和100年記念式典」に招待されました。

一般財団法人日本グラウンドワーク協会

「昭和100年記念式典」(式典委員長:高市早苗内閣総理大臣)が日本武道館において天皇、皇后両陛下のご臨席のもと開催されました。当協会も式典に招待(農林水産省推薦)され中里良一理事長が出席しました。

高市式典委員長から「本日は、昭和百年記念式典にご参列いただきありがとうございました。本式典は、令和8年に昭和元年から起算して満100年を迎えることを記念し、激動と復興の昭和の時代を顧み、将来に思いを致す機会となるよう挙行するものです。本日の式典が、我が国が目指すべき将来像を国民の皆様とともに考える契機となれば幸いに存じます。」と式辞がありました。



行こうよ！水土里の旅！

こじまわんしめきりていぼう

□ 児島湾締切堤防と児島湖（岡山県岡山市、倉敷市、玉野市）

児島湖は、戦後の食糧増産のために、水不足に苦しむ干拓農地約4,300haの農業用水の確保と排水改良、高潮・塩害防止を目的として、昭和25年から36年に農林省により造成された淡水湖です。児島湾締切堤防は、児島湾（海）を締め切って、淡水湖と海を区分するための堤防で、総延長は1,558mあり中央部には排水樋門が設置されています。また、堤防上の管理用道路は一般車両にも開放されており、1日当たり約14,000台の交通量があり、地域の生活・産業の進展に大きく貢献しています。



児島湾締切堤防、
児島湖、干拓地（全景）

排水樋門は老朽化し、堤体は波浪による劣化が進んだことから、昭和55年から、樋門の統合（2カ所→1カ所）と堤体補強が実施されました。また、高度成長により児島湖の水質が悪化したため平成初期には水質改善のためヘドロ浚渫が行われました。現在は、南海トラフ大地震へ備えるため、堤防と排水樋門の耐震化工事が進められています。



児島湾締切堤防と排水樋門（工事前）

耐震化工事として、堤防は2重に矢板を打設して沈下を抑制し、排水樋門は、基礎杭を追加施工したり堰柱を炭素繊維や追加鉄筋で補強して樋門の機能を維持します。



堤防耐震化工事の様子



市民参加による児島湖流域清掃大作戦

児島湖流域では関係者が協働して水質改善や環境保全を目指す「児島湖流域環境保全対策推進協議会」が設立されています。毎年11月に児島湖流域清掃大作戦が実施され、堤防会場には約600人が参加します。ビブスのCOD5mg/Lは水質目標です。

堤防中央管理事務所の1階に、干拓資料室があります。江戸時代に始まった干拓の歴史や工法、締切堤防の工事など貴重な資料が展示されています。

農業土木技術-プロの仕事

農業土木に関連する企業・団体が日々の業務で取り組んでいる技術情報を紹介する「農業土木技術-プロの仕事」。今回は55haのほ場整備地区において、BIM/CIM（3次元）モデルを作成し、これを設計段階で活用したときの効果を検証した結果についてご紹介します。

1.地区の概要

検討対象地区は富山県中央部に位置する水田農業地帯です。本地区では、国営事業により生産コストの低減による生産性向上と農業経営の安定のため、ほ場の大区画化・汎用化や農地の利用集積・集約化が進められています。

2.3次元モデルの設計段階での活用効果検証内容

ほ場整備の実施設計で作成された2次元図面を基に、「ほ場整地工」「農道・畦畔」「用排水路」等の3次元モデルを作成し、その効果を検証しました。

検証1として、ほ場整備では現況の小区画で不整形な農地を大区画のほ場へ区画整理を行います。このとき、地均計算を行ってほ場の切・盛土量のバランスを最適化させます。この土量計算を3次元ソフトウェアの数量算出機能を用いて算定することによる作業の効率性を検証しました。

検証2として、地元説明会に、この3次元モデルを用いて説明を行うことによる地元住民の整備内容の理解度を検証しました。

3.3次元モデルの活用効果の検証結果

検証1では、3次元ソフトウェアにより55haのほ場での切・盛土量を算定したところ、計算時間が約10分に短縮され、大幅な作業の効率性が確認できました。

検証2では、3次元モデルを用いて地元説明会で説明したところ、アンケート結果では、約8割の住民から「視覚的に分かりやすく、整備後の姿をイメージできる」との回答が得られ、事業の促進に貢献しました。

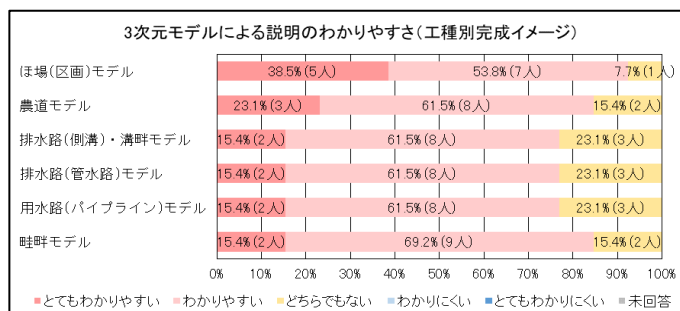


図.3 地元説明でのアンケート結果

4.あとかぎ

ほ場整備における設計段階での3次元モデルの活用効果の検証結果をご紹介しました。紹介がしきれませんでしたが、他にも設計内容の照査や土工・構造物（配筋含む）の数量算出、配筋チェックと様々な活用が可能となっています。

【情報提供】内外エンジニアリング株式会社

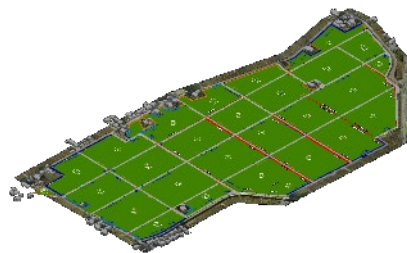


図.1 作成した3次元モデル

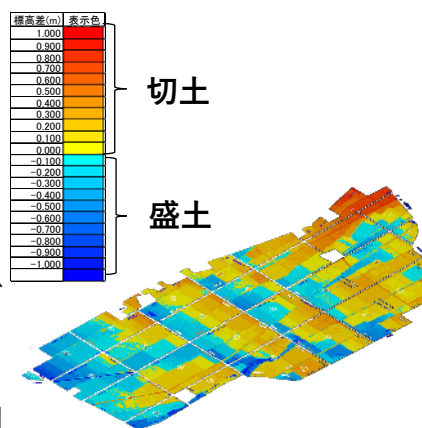


図.2 切・盛土量計算結果(ヒートマップ)



写真.1 地元説明の様子

サークル活動紹介

「千葉大学 援農お宝発掘隊 サークル活動紹介」

私たちは、農業活動や地域での体験を通して、自然と関わることの楽しさや面白さを知ることが目的に活動している千葉大学の学生団体です。圃場での農作業をはじめ、自然体験や食文化交流などを行い、人と自然とのつながりを実感できる活動を続けています。今後は農業活動に加え、生き物観察・調査活動、水辺環境の観察や釣り体験、自然体験を通じた学びの共有を行っていく予定です。そして、農業・自然環境・地域交流を横断した活動へ発展させていければと思っています。

圃場作業と農業実践

私たちは定期的に圃場で農作業を行い、作物の栽培・管理を実践的に学んでいます。土づくりから収穫まで関わることで、農業の大変さと面白さの両方を体験しています。また、地域農家のもとで農作業を行い、実践的な農業理解を深めています。自分たちの手で育てた作物の成長を見て、調理して食べることが大きなやりがいとなっています。



竹小屋づくりと環境整備

活動拠点では間引きした竹材を使用して、竹小屋づくりに取り組んでいます。材料の準備から設営までをメンバー同士で協力しながら進め、自分たちの活動場所を自分たちの手で作り上げています。



郷土料理会による地域交流

地域の食文化に触れること、メンバーの交流を目的として郷土料理会を開催しています。農業・食・暮らしが繋がっていることを体験的に学んでいます。食事を共にすることでメンバー同士の距離が縮まり、学年や学部を越えた交流が生まれています。活動を振り返ったり新しい企画の話をしたりと、仲間とのつながりを深める大切な時間となっています。



農業農村を応援する大学生サークル」の活動状況(Instagram)

☐日本グラウンドワーク協会公式公式Instagramにアップしています。
<https://www.instagram.com/groundworkassociationjp/>

【発行・お問合せ先等】 一般財団法人日本グラウンドワーク協会 中里
Tel:03-6459-0324 Mail:nakazato@groundwork.or.jp

グラウンドワークとは「協働で地域をよりよくする」という意味です。当協会は、「中間支援団体」として①地域活性化、②環境保全、③福祉、④棚田保全等社会的課題解決を目的に、若者（大学生等）参加及び男女共同参画による協働を主軸にした、いわゆる「日本型グラウンドワーク」を推進しています。